

(様式3)

水源環境保全・再生かながわ県民会議 令和4年度第3回事業モニター報告書

事業名 間伐材の搬出促進事業

報告責任者 三宅 潔

実施年月日 令和4年10月19日(水)

実施場所 間伐材搬出地(小田原市久野地内)ほか

評価メンバー 青砥 航次、稲野辺 健一、上田 啓二、大原 正志、
乙黒 理絵、倉橋 満知子、太幡 慶治、土屋 俊幸、
西田 素子、羽澄 俊裕、古舘 信生、増田 清美、
三宅 潔、宮下 修一、三好 秀幸

説明者 神奈川県森林再生課森林企画グループ
神奈川県西地域県政総合センター森林部森林保全課
小田原市森林組合(補助事業者)

モニターのテーマ

間伐材の集材・搬出による持続的・自立的な森林管理にかかる実施状況等をモニターする。

事業の概要

・ねらい

間伐材の搬出を支援し、有効利用を図ることで、森林所有者自らが行う森林整備を促進し、水源かん養など公益的機能の高い良好な森林づくりを進める。また、併せて、間伐材等の森林資源を有効利用することにより、民間主体の持続的・自立的な森林管理の確立を目指す。

・内容

1. 間伐材の搬出支援

林道から概ね200m以内の範囲の森林を対象として、間伐材の集材、搬出に要する経費に対して助成する。

2. 生産指導活動の推進

森林組合連合会が行う、搬出事業者等に対する造材・仕分け指導、生産効率の高い搬出方法の普及定着を図るための生産効率調査・検証、搬出事業者と製材工場等との需給調整の仕組みづくり・運営を行う経費に対して補助する。

・実績(第3期実行5か年計画/H29~R3)

区分	第3期計画	H29年度 実績	H30年度 実績	R1年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	累計 G進捗率・執行率
① 間伐材搬出支援	120,000 m ³	24,262 m ³	25,244 m ³	24,475 m ³	27,178 m ³	25,370 m ³	126,529 m ³ (105.4%)
② 生産指導活動の推進	50 箇所	11 箇所	12 箇所	12 箇所	10 箇所	11 箇所	56 箇所 (112.0%)
事業費(万円)	155,000	29,676	30,686	29,572	30,491	28,395	148,821 (96.0%)

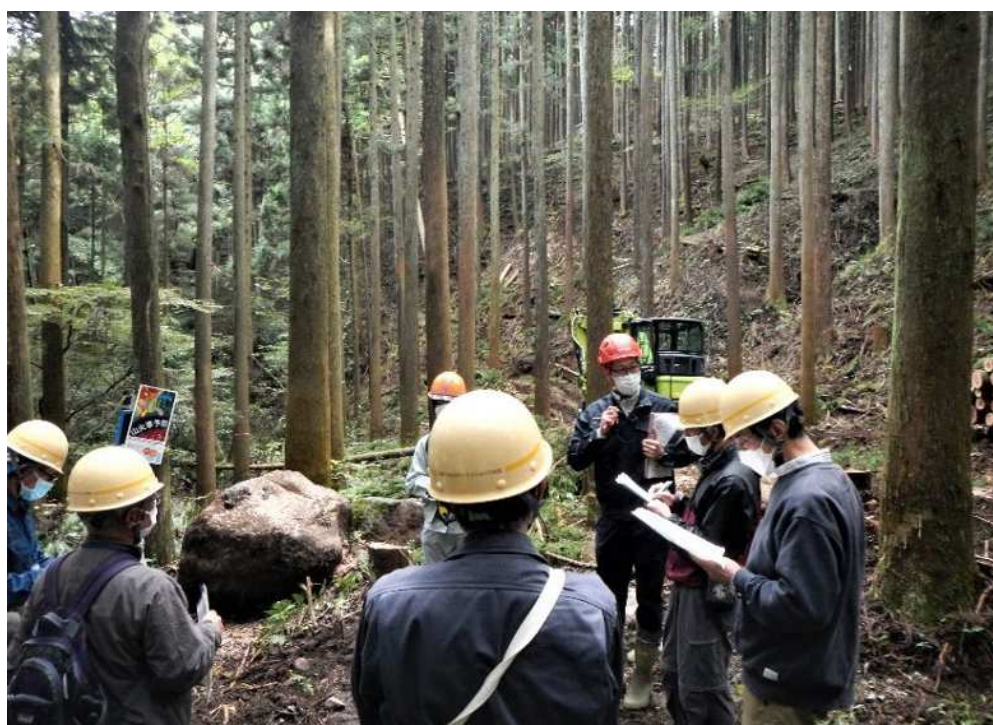
経費(単位:千円)

		H29	H30	R1	R2	R3
間伐材の搬出促進		296,197	306,036	294,968	304,142	283,231
内訳	間伐材の搬出促進	272,741	281,790	270,722	279,896	258,126
	生産指導活動	23,456	24,246	24,246	24,246	25,105

評価結果	評価点
共通項目	(5点満点)
① ねらいは明確か	5点 (5名)
○公益的機能を発揮することを重視し、間伐材の搬出を目標にして事業計画がなされており、水源林の保全と木材の有効利用を目指しており、ねらいは明確である。	4点 (9名)
○持続的、自立的な森林管理というねらいは大変明確である。	
② 実施方法は適切か	5点 (4名)
○間伐材搬出促進事業を推進するため、林道から概ね 200m 以内の森林を対象とした間伐材搬出事業費の補助及び神奈川県森林組合連合会が行う生産指導活動費事業費の補助は適切である。	4点 (7名)
○民間を対象に間伐材搬出作業及び生産指導への補助が中心だが、効率化や間伐の優先順位などをどこまで県として指導しているのかよくわからない。	3点 (3名)
③ 効果は上がったか	5点 (3名)
○貯木場の見学から、搬出された間伐材は樹種、材質により特性に応じた処理がされている。これは、森林施業事業者の意欲に結びついていると思われる。	4点 (9名)
○事業実施前に比べて着実に間伐材の搬出量は増え、県産材の生産高も上がっており、当初計画している目標値を超え維持していることは効果が上がったといえる。	3点 (2名)
④ 税金は有効に使われたか	5点 (1名)
○作業のために機械化は避けられないが、そのための事業者の負担は大きい。神奈川県で森林事業を行う業者は小規模なものが多く、効率よく行うためには課題がある	4点 (8名)
○間伐材搬出事業及び生産指導活動の実績は、目標を継続的に達成していることから税は有効に使われている。	3点 (5名)
個別項目	5点 (1名)
【生産指導活動の実績及び分析・評価の提示】	4点 (5名)
○年間の生産指導実施箇所数は示されているが、箇所ごとの具体的な指導内容とその指導がどのようにうまく機能しているのかの分析・評価を示すことが生産指導活動の効果を理解する上では重要である。	3点 (5名)
	評価不能等 1名
	記載なし 2名
【間伐材搬出事業】	
○水源林エリアの森林も小規模な林家の持山が多く、スケールメリットを生かした間伐などの森林整備事業を計画することにはいろいろな障害がある。時間がかかるかもしれないが、森林組合などが先導して地域として、そこにある力と知恵を生かし公的補助も含めて持続性のある事業の構築が出来るようなことに目を向けていくことが望まれる。これらの体制を整備していくために生産指導活動の充実が図られると良いと思います。	

総合評価	評価点
<p>○間伐材搬出事業は、水源環境保全・再生施策第3期5カ年計画で定められた目標値を達成している。見学させて頂いた、小田原市久野の森林は70年生で、管理も良くされている。70年生と言うことは、戦後まもなくの頃は草地状の山だったと想像され、これを思うと水源かん養の機能がしっかりと発揮されていることに感動を覚えた。このような事業に水源環境保全税が生かされていることは素晴らしいと思った。</p> <p>○特別対策事業により、民有林に手が入り間伐材の伐採から搬出と明るい森林整備が促進されて水源林機能が維持されてきたと感じられた。それを裏付けるように、提供された間伐材搬出事業の生産量が事業開始により平成28年度には目標値に到達し、以降は維持されているデータも示された。事業者に対する間伐材の伐採から搬出の機械化への支援、人材育成と確保維持への支援が、「民間主体の持続的・自立的な森林管理の確立」を目指したものであり効果が出てきていると評価した。</p>	<p>(5点満点) 5点(4名) 4点(6名) 3点(4名)</p>

▼間伐材搬出地 現場視察の様子



▼間伐材搬出地 現場視察の様子



▲意見交換の様子

令和4年度第3回事業モニター評価一覧 (間伐材の搬出促進)

1 共通項目

「事業のねらいは明確か」

評価者	評価、疑問提起、改善示唆	評価点
青砥	・視察させていただいた森林は、よく整備されている様子が明らかで、初期の目的を果たしていると感じられた。	5
羽澄	・施策展開の方向性、ねらい及び目標に記載のある「公益的機能の発揮を重視した森林の保全・整備」あるいは「民間主体の持続的・自立的森林管理の確立を目指す」は、正しい方向だと考えます。	5
稲野辺	・水源かん養を初めとする公益上必要な森林と木材として活用する森林の二通りのバランスを保つ。	4
上田	・公益的機能を発揮することを重視し、間伐材の搬出を目標にして事業計画がなされており、水源林の保全と木材の有効利用を目指しており、ねらいは明確である。	4
大原	・事業のねらいは明確です。森林資源の有効活用を森林所有者が継続的に行うことが出来るように、経費助成の支援を行っている。	5
乙黒	・間伐材搬出促進事業の間伐搬出事業費補助と生産指導活動事業費補助について、間伐搬出事業費補助は明確だった。	4
倉橋	・安い外材による林業不振は長い間森林荒廃を招き、森林に関する様々な問題の要因となっている。森林整備による間伐材を活用し、自立できる林業を目指すためには補助が必要だと思います。	4
太幡	・間伐材の伐採から搬出、選別と利用の現場を見て、説明を受け、H28年度以降、間伐材搬出量が目標達成を維持している実績を確認できたので事業のねらい通りに進行していると思う。	4
西田	・持続的、自立的な森林管理というねらいは大変明確である	5
増田	・森林を整備し、整備に伴って生じる間伐材の有効活用を促進することは明確である。	4
古舘	・森林整備のために伐採された間伐材を目標のm ³ 量に従って搬出するというねらいは良く実施されていると思う。今回視察した小田原市森林組合は間伐材を神奈川県森林組合連合会(県森連)林業センターに持って行くと同時に、一部は独自に有効活用していることは理解できた。ただ、県西地区全体(神奈川県全体)ではどのように有効活用されているかは見えなかった。	4
三宅	・かながわ森林再生50年構想の考えのもと、合理的に間伐作業が進められているので、ねらいは明確だと思います。	5
宮下	・間伐材の搬出を支援し、有効利用を図ることで、森林所有者自らが行う森林整備を促進し、水源かん養など公益的機能の高い良好な森林づくりを進める。また、間伐材等の森林資源を有効利用することにより、民間主体の持続的・自立的な森林管理の確立を目指すというねらいは明確である。	4
三好	・持続可能な森林管理のため、「資源循環ゾーン」で間伐材の搬出を促進する事業としてねらいは、明確である。	4

「実施方法は適切か」

評価者	評価、疑問提起、改善示唆	評価点
青砥	・視察させていただいた現場で、県職員からの丁寧な説明があり、日頃からの生産指導が適切に行われていることが推察できた。	5
羽澄	・搬出促進事業という事業目標からすれば、指標を搬出量に設定することは適切でしょう。ただし、上記の施策展開の方向性等がめざす内容からすると、搬出量以外にも評価指標が必要であったのではないかと、今更ながら思います。	4
稲野辺	・間伐材の集約・搬出に要する経費助成を含む支援・協力を行い効果的な森林管理を促進している。	4
上田	・目標とする事業量をクリアしていることから実施方法は適切であるといえる。	3

大原	・実施方法は適切と思います。支援対象地域に関し、概ね林道から200m以内の範囲の森林を対象としているが、林道の整備が重要だと思う。	4
乙黒	・間伐搬出事業費補助は評価5、生産指導活動事業費補助については、県の取組に関してもう少し情報が欲しい。	3
倉橋	・見学した場所は立地条件が良好なため、重機の使用も充分利用でき、搬出にも良好で適切に行っているように思います。	4
太幡	・間伐材の集材・搬出・運搬を行う機械の購入・維持への支援、人材育成への支援、間伐材の利用を促す事業への支援など民間主体であり、持続的・自立的な事業実施方法は、他の委員からも発言のあった「循環型を目指す取り組み」で、実施方法は適切であったと思う。	4
西田	・搬出された木材をできる限り有効利用するために、事業者へ補助金を交付するのは適切である。効率化を図るため、調査・検証を行うことは適切である。	5
増田	・適切といえる。	4
古舘	・間伐→集材→搬出までを小田原市久野の伐採現場で見せて頂き適切に実施されていると拝見した。間伐搬出促進のために搬出補助金で支援していることも理解できた。	5
三宅	・林道から200m以内の範囲の森林を計画的に間伐し、集材、搬出に関わる経費を助成し、間伐材搬出量が増加しているのので、実施方法は適切であると考えます。	5
宮下	・間伐材搬出促進事業を推進するため、林道から概ね200m以内の森林を対象とした間伐材搬出事業費の補助及び神奈川県森林組合連合会が行う生産指導活動費事業費の補助は適切である。	4
三好	・民間を対象に間伐材搬出作業及び生産指導への補助が中心だが、効率化や間伐の優先順位などをどこまで県として指導しているのかよくわからない。	3

「効果は上がったか」

評価者	評価、疑問提起、改善示唆	評価点
青砥	・貯木場の見学から、搬出された間伐材は樹種、材質により特性に応じた処理がされている。これは、森林施業事業者の意欲に結びついていると思われた。	5
羽澄	・搬出量が目標に達したとの観点からは、効果は上がったと評価することができます。ただし、効率性が適切であったかと問われれば、材料不足で評価できません。	4
稲野辺	・綿密な計画のもと実施され効果が上がっていると認識している。	4
上田	・事業実施前に比べて着実に間伐材の搬出量は増え、県産材の生産高も上がっており、当初計画している目標値を超え維持していることは効果が上がったといえる。	4
大原	・効果は上がっていると思います。間伐搬出量に関し、平成27年度より目標値を毎年度、概ね達成している。森林管理が重要な視点と思われる。	4
乙黒	・間伐搬出事業費補助は評価5、生産指導活動事業費補助については、県の取組に関してもう少し情報が欲しい。	3
倉橋	・充分上がっていると見ます。	4
太幡	・効率的な間伐材の搬出作業で、間伐材を土砂流出防止の土留め以外に、建築材や家具材と地域での有効利用ができています点で評価できる。	4
西田	・間伐材の有効な活用により、無駄なく効果が上がっていると思われた。ただし、目標の30,000m ³ の木材をすべて有効活用できるのか、疑問が残る。	4
増田	・平成30年度から令和2年度までの搬出量実績年度平均と令和3年度を比較すると搬出量は下がっているが、数字だけで判断するものでもなく、目標数値の年24,000m ³ を超えているという事で効果は上がっているのではないかと。	4

古舘	・森林組合、下請けの林業企業で、補助金を有効に活用して、搬出しやすいように路網を作りフォワーダーで搬出し森林はきれいに整備されているのは分かった。ここは厳しく森林再生課が指導しており効果は上がっていると思う。	5
三宅	・間伐後に下層の植生が改善されており、搬出量も計画どおり進んでいるようなので、効果はあると考えます。	5
宮下	・搬出事業の実績は年間目標値24,000m ³ を達成するとともに県木材生産量も年間目標値の30,000m ³ を概ね達成している。生産指導実施箇所も目標5年間で50カ所を超えており効果は上がっている。	4
三好	・生産量の変化から、効果は上がっているが、間伐作業の持続が補助金頼みになっていると感じる。また、必要な作業効率向上の取組やその進捗状況がよくわからない。	3

「税金は有効に使われたか」

評価者	評価、疑問提起、改善示唆	評価点
青砥	・作業のために機械化は避けられないが、そのための事業者の負担は大きい。神奈川県で森林事業を行う業者は小規模なものが多く、効率よく行うためには課題がある。	3
羽澄	・それぞれの事業の実行に向けて努力されていることは理解できるので、税が無駄に使われているとは思いません。ただし、どれほど有効に使われたかを評価せよと求められれば、材料が足りません。たとえば小田原森林組合だけでなく、県全体の事業体の現状に関する情報がなければ評価できません。	4
稲野辺	・本事業に関する税金の使途は有効に使われていると思うが、付随する補助金等があれば教えて欲しい。	3
上田	・対象エリアの森林状況を見極めて計画された目標値を達成し、事業を進められていることは有効に税金が使われていると判断できる。	3
大原	・税金は使われている事は判りましたが、費用対効果の面では、有効に使われているかどうかは判断できませんでした。	3
乙黒	・間伐搬出事業費補助については間伐材の伐採現場～集積所を見学させて頂き具体的な事業内容がわかり有効に使われていると感じ、評価5。生産指導事業活用はもう少し情報が欲しかった。評価3。	4
倉橋	・長期施業受委託事業での実施で終了時には充分利益が出ると聞きました。持続可能な林業に繋がるのであれば有効である。	4
太幡	・この事業により地面に陽光が差し込まない森林が減り、雨水の浄化作用を行う下草や灌木が生えた環境が増加し確保されている。県民の健康の基本である良質な水道水を造り出すために税金が有効に使われたと思う。	4
西田	・有効に使われていると推測されるが、生産指導活動に伴う税の使途については、詳細が分からず疑問が残る。生産効率調査が今後の需給調整に役立つものであれば有効に生かされているといえるかもしれない。	3
増田	・有効に使われている。	4
古舘	・間伐材搬出事業を行った林業事業者への搬出補助金は適切に支給されているのは前から知っていたし、今回も確認できた。ただ、予算の10%弱が神奈川県森林組合連合会による生産指導活動に使用されているとの事であるが、具体的にはどのように使われているかが良く見えなかった。	4
三宅	・間伐した材木の種別を選びながら、有効活用できるように販売されているようなので、有効に使われたと考えます。	5
宮下	・間伐材搬出事業及び生産指導活動の実績は、目標を継続的に達成していることから税は有効に使われている。	4
三好	・生産量が計画どおり進んでいることから、有効に使われている。ただ、持続可能な事業とするためには、本計画が完了する令和8年度以降も補助が必要と感じる。	4

令和4年度第3回事業モニター評価一覧
(間伐材の搬出促進)

2 個別項目

評価者	項目	評価、疑問提起、改善示唆	評価点
青砥	間伐材の搬出	・作業の効率化のために機械化は避けられないが、事業者は安定した収益が見込まれないと設備投資が進まないという説明があった。事業者の選定では入札方式は避けられず、事業者にとっては安定した収益が保証されないことになる。	3
	作業機材の効率的な運用	・金額が大きい重機は、森林組合など公的な機関で所有し、事業者はそれをレンタルすることなどで避けられるのではないか。	
羽澄	搬出生産性、効率性の追求	・資料に基づく間伐材の搬出の実績は第3期実行5か年計画の年間目標を達成していますから、その努力は評価に値します。 ・課題に記載のある、「生産性は全国平均より低位で推移しており、施業の効率化に向けた取り組みを一層推進する」という点に関しては疑問を感じました。税を使う以上、その生産性、効率性の追求は必須のことですが、森林それぞれの条件、県民が森林に求める事柄によって、木材の生産性が最優先課題とはかぎりません。神奈川県森林管理において、作業の安全確保、災害リスク対策、シカリスク対策を踏まえた木材生産性を考えた場合、妥当な目標設定とはどのようなものか。この点は大綱20年の最終第4期の重要な検討課題でしょう。	3
稲野辺	間伐材の搬出	・今回の小田原市森林組合の現場視察は、フラットな場所であり作業しやすい環境であると思う。逆に急峻な森林地帯の作業の場合の対策を共有いただきたい。 ・作業生産効率については全国平均4.35/m ³ に対して本県は2.4/m ³ となっている事情を知った。所有者が細分化されている場合は個別交渉による承諾に労力を費やす。	4
上田	間伐材搬出事業	・かながわ森林再生50年構想で木材生産と水源の森林としての公益的機能を重視した中で事業が進められている。水源林エリアにおいては、環境に配慮した管理方式で、かつ効率アップによって生き残ることを考えながら林業経営をしていかなければならない。また、間伐材の搬出実績を見ると搬出材に対する補助金が出るようになって搬出量が増大し目標値をクリアしている状況であり、補助金は水源の森を守る大きな力になっております。水源林エリアにおいては森林を健全な状態で管理していかなければ水源林の役割を十分に発揮することができなくなってきました。 ・水源林エリアの森林も小規模な林家の持山が多く、スケールメリットを生かした間伐などの森林整備事業を計画することにはいろいろな障害がある。時間がかかるかもしれないが、森林組合などが先導して地域として、そこにある力と知恵を生かし公的補助も含めて持続性のある事業の構築が出来るようなことに目を向けていくことが望まれる。これらの体制を整備していくために生産指導活動の充実が図られると良いと思います。	3
大原	生産指導活動	・小田原市森林組合より現場視察と説明を頂きました。間伐材の有効利用を図ることに関し、様々な用途の発掘に取り組んでいることが判りました。固定観念にとらわれることなく、更なる市場ニーズの発掘に努め、神奈川県材の有効利用を推進して頂きたいと思います。	4
乙黒	生産指導活動事業補助	・1件あたり230万円×11件の実績の内容について、詳細情報の情報が知りたい。	—
倉橋	間伐材搬出	・重機を駆使して手際よく作業していく様子は気持ちいいもので感心しました。現在は間伐材搬出補助金で搬出が成り立っているが、補助金が無くなるとそれは難しくなる。補助金に頼らず循環型持続可能な林業を維持するための方策が必要です。手に入る場所や森林のことが学べるような木材の価値を広く啓発できる拠点(森の駅)が都市部の中に必要と考えます。	4

2 個別項目

評価者	項目	評価、疑問提起、改善示唆	評価点
太幡	間伐材の搬出機械の維持	<ul style="list-style-type: none"> 過去の多人数での林道作りや枝打ちや伐採という重労働イメージから機械化による省力化が進み労働環境が飛躍的に良くなったという印象を持った。少人数での森林管理を支える搬出機械が、外国製品も有り高価であること、消耗部品も多く維持に費用がかかることを考えると、搬出機械の維持管理費用が業者の重い負担となる。公的に維持・管理を支える必要を感じた。 	3
古舘	森林資源の有効活用について	<ul style="list-style-type: none"> 間伐材搬出促進事業のスキームでは、搬出された木材は、大型トラックで県森連の林業センター(秦野市)に運ばれ検知を受け、しかるべき代金が支払われる。林業センターでは、A材、B材などは定期的に入札販売の市が立てられ落札者に購入され、C材、D材(県西地区の材は殆どこのグループに属す)の一部は県外に集成材加工へと運ばれ、残りはチップ化されてバイオマス発電所に供給されていると聞いている。これで、森林資源は有効活用されているとするかどうかである。これで良しとするのはあまりにも淋しい気がする。 幸い、小田原市森林組合は貯木場の中に独自の製材ラインを持っていて製材加工もできるし、他の加工業者やお店とも連携して名刺の小物から日用品まで加工販売し薪加工までして木材の付加価値をあげている。 他の林業事業体がどこまでやっているか知らないが、(零細)中小なの事業体が自立できるように、森林伐採した木材の有効活用に取り組めるような支援も必要ではないだろうか。 	4
三宅	作業範囲の決定	<ul style="list-style-type: none"> 森林の作業場所の決定とその順番を決めるのに、地形に沿って緻密に計画をたてて行っていることを知り、感心しました。車がすれ違うのも大変な狭い林道を計画的に作る技術がすごいと思います。 	5
宮下	生産指導活動の実績及び分析・評価の提示	<ul style="list-style-type: none"> 年間の生産指導実施箇所数は示されているが、箇所ごとの具体的な指導内容とその指導がどのようにうまく機能しているのかの分析・評価を示すことが生産指導活動の効果を理解する上では重要である。 	3
三好	現地の実態	<ul style="list-style-type: none"> 初めて、間伐作業を見学し、貴重な体験となった。安全を確認しながらグラップルを使った作業路の整備、集材等、効率化されていた。また、間伐材の活用については、販売先の確保等も行っており、小田原モデルとして循環していると感じた。現地視察させていただいた現場は、林道から近く、販売先も確保しており、比較的恵まれた所だと思う。他地区の現場の状況が気になった。 	4

令和4年度第3回事業モニタ一評価一覧 (間伐材の搬出促進)

3 総合評価

評価者	評価	評価点
青砥	<p>・間伐材搬出事業は、水源環境保全・再生施策第3期5カ年計画で定められた目標値を達成している。見学させて頂いた、小田原市久野の森林は70年生で、管理も良くされている。70年生と言うことは、戦後まもなくの頃は草地状の山だったと想像され、これを思うと水源かん養の機能がしっかり発揮されていることに感動を覚えた。このような事業に水源環境保全税が生かされていることは素晴らしいと思った。</p>	5
羽澄	<p>・間伐材搬出促進事業の長期的な意義について 10年、50年、100年と、税を支払う神奈川県民が、良質の水、生物多様性の保全、森林資源の活用、観光便益、山麓への災害予防、等々、多岐にわたる生態系サービスを楽しむためには、神奈川県内の森林を健全な状態に保っていくことは必須です。したがって、森林管理の技術を持続的に継承していく体制を作り上げておくことは欠かせません。その意味で、この間伐材搬出促進事業は、森林管理の実行体制を確立していく重要なステップであると考えます。 ただし、「民間主体の持続的・自立的森林管理の確立を目指す」と施策のねらいに書かれておりますが、この人口減少時代の中で、将来的に向けて持続性を担保していくための体制について、どれくらいの規模の技術者を配置する必要があるかという目標が明確になっていないと思います。したがって、大綱最終第4期中にはこの目標を明確にして、その達成に向けた取り組みを開始しなくてはならないと思いました。 また、水源事業の中で森林管理とシカ管理の連携が理解されるようになったことは、とても大きな前進だと思っております。ここでいう連携の意義とは、税を投入してシカ捕獲を強化している一方で、やはり税を投入して間伐によって餌場を増やしていること（繁殖に寄与）の、両者の矛盾の調整にあります。連携の具体策とは、伐採跡地を柵で囲んで餌場にしないこと、あるいは餌場となった伐採跡地に集まるシカを、その場で捕獲することのいずれかです。森林管理上は伐採跡地を柵で囲むことが進められているとのことですが、この点は事業評価の対象にするべきだと思いました。すなわち伐採箇所全体の何%が柵で囲まれたのか、そこにどれほどの予算が投入されたのか、その年間実績の表がほしいと思いました。</p>	3
稲野辺	<p>1) 座学 ・間伐の目的は水源かん養や自然環境保全であると認識していましたが、そこに至るまでの所有者間の調整の労力を知りました。 ・間伐をより効果的、円滑に進める上で細分化した私有林の「集約化」は非常に重要である。その結果、コストの抑制に繋がると思う。 ・第3期実行5カ年計画における県の間伐搬出目標は年間24,000m³、木材生産量目標は年間30,000m³とし、実施されている。 ・健全な森林づくりに不可欠な間伐であるが、間伐材の集約や搬出に経費補助が充てられている。林道から200m圏内との条件付きとの事だが、奥まった場所への助成金対応も必要ではと考える。 ・県の木材の作業生産効率は、2.4m³/人・日に対して、全国平均は4.35m³/人・日より劣る。その要因として神奈川県内の森林は比較的急峻な場所が多く、搬出作業に手間がかかるとの事であった。作業性や生産効率も重要であるが、林地に考慮した対応は将来的に不可欠であると感じた。 ・地球温暖化が年々進行し、気候変動に伴う災害リスクは増加する一方である。今後はシナリオ分析した上でリスク対応が求められる。 ・4番事業にかかる経費は年平均3億円前後で推移しているが、人的資源の投入が必要な事業であると思った。</p> <p>2) 現地視察 ・小田原市森林組合の間伐実施状況は県内で6番目の2,000m³と聞いた。今回視察した場所は林道から至近であり作業性も高い場所であった事もあり、手作業と機材を融合し2名体制で作業されていたのは効果的だと思った。 ・製材工場の現場では樹種別、用途別に管理されており無駄なく活用している様子であった。 ・当組合の説明を聞いた限りでは、製材工場や搬出業者など関係するサプライヤーと連携が順調であると感じた。このようなベストプラクティスを県内の各組合に水平展開することで生産性の効率向上に繋がると思われる。</p>	4

3 総合評価

評価者	評価	評価点
上田	<p>・事業の進捗や実績から間伐材の搬出促進は有効に推移していると判断できる。これは現在の制度の中で維持されていることであり、これからは施策大綱期間満了後を見据えた姿を検討していかなければならない。水源環境の保全としては、今まで施工されているように水源地域の森林に対して木材生産と、水源環境の維持は常に考えていかなければならないことである。</p> <p>・小規模な林家が多い水源地域の森林の保全・管理については、権利の調整や、経費の負担、利益の配分など様々な問題を持っている。これらを取りまとめて水源地域の林業を維持していくためには、小田原市森林組合の土場で見せてもらったように林業の持つあらゆる可能性を追求して林産物に付加価値をつけて流通させる。地域の林業従事者の安定した雇用対策や、儲けられる林業への指導、林業事業者の連携などによる装備の充実、地域産業として生き残れるような事業の創出など、地域が一体となって進んで行ける仕組み作りなどにも生産指導活動を広げてゆく必要があると考えます。</p>	3
大原	<p>・間伐材搬出事業の生産量と県木材生産量の実績推移からは、本事業が毎年度、目標値を概ね達成していますが、木材の生産性は、全国平均と比べると、低位に推移しており、今後、目標値の見直し等、より取組を強化することを念頭に、さらなる事業の推進をご検討頂きたいと思いました。</p>	4
乙黒	<p>・森の中での間伐材の伐採する所を見学させて頂き、感動しました。森林組合の方、実際作業をされている方のお話を直接伺ったのが非常に勉強になりました。ダイナミックな環境の中で1本ずつ伐採をされる手順は、とても繊細な作業の連続で印象的でした。従事者の方のお話しでは、作業中一番気を付けていることは、距離感。人同士の距離、人と機械の距離に気を配っておられるとのこと。現場を実際拝見して、現場で仕事をしながら仕事を伝えていくのは非常に困難かつ危険ということがわかり、7月の事業モニター、森林塾の大切さを改めて感じた。今回事業モニター事業同士の連動性を感じ、単体の事業として拝見するだけでなく、横軸での事業の評価も意識する事が大切だと感じました。ありがとうございました。</p>	5
倉橋	<p>・現在は間伐材搬出に補助金で支援されているので地主さんも今のうちに売ってしまいたいという気持ちは理解できる。その後はどうなるのか、一定の間伐はされても手入れがされないまま、動かない森が見えてくるのは錯覚でしょうか。持続可能な自立した森にするためにも、間伐材の価値を県民に周知することが必要と切に感じます。</p>	3
太幡	<p>・特別対策事業により、民有林に手が入り間伐材の伐採から搬出と明るい森林整備が促進されて水源林機能が維持されてきたと感じられた。それを裏付けるように、提供された間伐材搬出事業の生産量が事業開始により平成28年度には目標値に到達し、以降は維持されているデータも示された。事業者に対する間伐材の伐採から搬出の機械化への支援、人材育成と確保維持への支援が、「民間主体の持続的・自立的な森林管理の確立」を目指したものであり効果が出てきていると評価した。</p>	5
西田	<p>・間伐材搬出量についてはH15の10倍の量を維持しており、順調に目標を達成しているといえる。搬出後の製品化も小田原市森林組合では6種類ほどの用途別に分けられ、余すことなく利用されていることが分かった。ただし、十分な事業量の確保、人材の確保については課題が残る。</p>	3
増田	<p>・伐採している現場を訪れ、間伐をしている瞬間を見た。現場ではあっという間に大木が倒され、また、それをチェーンソーで素早く玉切りにしていく。会議室で説明を受け、現場に赴いて改めて、間伐材の搬出促進の必要性を再認識した。</p>	4

3 総合評価

評価者	評価	評価点
古舘	<p>・水源林の整備をした後に、伐採された木材を積極的に搬出して活用する「間伐材搬出促進事業」を行い、林業者を手厚く支援している県は神奈川県くらいではないかと思われるので、その意味で高く評価したい。他県では、国の木質バイオマス発電の再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT）が進み、森林の乱伐が進み環境破壊も激しく、山地崩壊や土砂崩れを起し自然災害を拡大させている地域もあるようだ。幸い、神奈川県は森林小県であるために、水源環境保全・再生施策によって、森林が守られていることは特筆すべきことである。</p> <p>一方でこの水源環境保全・再生施策における間伐材の搬出は、中小の林業事業者によって支えられているのも事実であり、彼らは自立したくても自立できずに搬出補助金に頼り切っている実態がある。木材生産効率を上げるために高性能林業機械を導入しても、それに相応しい仕事がないというジレンマもある。現状では、県も森林組合を含んだ林業事業者も県森連もそれぞれの立場でバランスを取りながら業務を進めていると言える。その意味で、「間伐材搬出促進事業」の総合評価に高い評点を付けたいところではある。しかし、これまでの事業の行きがかりによって何となくバランスが取れている所に問題は潜んでいないか？革新性に欠けるのではないか？ 県産材がもう少し積極的に活用され、森林小県でもこんなことが出来るという「神奈川モデル」をいくつか示すことが出来れば、多くの若者を引き付けて神奈川林業が活性化するのではないかと思っている。今後の期待を込めて現状4と評価する。</p>	4
三宅	<p>・間伐作業は森林維持にとって最も重要な作業です。傾斜地がほとんどの山に植えられた人工林であるからこそ、作業路の整備を計画的に行ってやっている点は、評価できると考えます。</p>	5
宮下	<p>・木材の生産性の向上は全国平均よりも低位であるが、間伐材搬出事業費及び生産指導活動事業費の補助により、生産性は向上しつつある。中でも、民間レベルでの施策の効率化に向けた取り組みが大きく寄与していると思われた。小田原市森林組合では、補助金による事業の安定確保もあるが、長期施業受委託事業による集約化への取り組みや所有者境に縛られない作業道の設置により効率的な搬出が実現し、また、作業システムの改善により、伐採から運搬までの一連の作業の効率化への取り組みなどで、平成30年度からは毎年度2,000m³を超える搬出量が維持されている。しかし、事業への補助がなくなるとかなり厳しい経営が強いられるようである。このため、大綱終了後を見据え、持続的・自立的な森林管理を模索し、生産性を向上させるための取り組みは評価できる。</p>	4
三好	<p>・間伐材搬出促進事業としては、生産量も計画通り回復し、効果をあげている。しかし、補助金で支えているのが実態であり、本計画が完了する令和8年度以降も何らかの補助がなければ、生産量は減少し、適切な森林管理は難しくなると考える。神奈川県の林業は、森林面積や生産量から非常に小規模であり、またその事業者も小規模である。その中で水源林の管理のため、林業の保護や競争力のある生産者の形態、費用便益を考えた効率化を図っていかねばならず、県の主導が必要である。</p> <p>県民にPRするため、神奈川県の木材生産の考え方、間伐作業、間伐材の活用などのわかりやすい動画をHPやテレビ神奈川等マスコミで公開してはどうか。</p>	4